



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和6年2月10日(土)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

18

令和6年2月10日の「八高学びの祭典」で、次の話をしました。

今、私たちは「厳しい挑戦の時代」を生きています。「挑戦(challenge)」というと、何か高い目標に向かって挑む、というイメージでとらえる人が多いと思います。同時に、英語の challenge という単語には「やりがいのある課題や難問、試練」という意味もあります。容易に答えが見つからない、難しい課題が次々に私たちにふりかかり、私たちは知を結集し協働してそれらに取り組まなければならない時代である、と言えるでしょう。

では、そのような時代にあって私たちが学校で学ぶ意義とは何か。それは「質的な豊かさを伴う個人や社会の成長につながる新しい価値」を生み出すことに他なりません。皆さんには、人にとって、また社会にとって、「質的な豊かさ」とは何なのかを、問い続けていただきたいのです。

「質的な豊かさとは何か」という問いは、すなわち「人の幸福とは何か」という問いでもあります。この問いに対する、今の私の答えは一つです。それは「人が、家族や仲間、そして多様な人々との間に結ぶ信頼関係」これをおいて他にはない、ということです。

八高学びの祭典が、人や社会にとっての「質的な豊かさ」、つまり、「多くの人との絆や信頼関係、つながり」を実現する第一歩になることを強く願っていますし、そうなることを確信しています。八鹿高校の校歌にある、「みなかみ遠き谷々の水を集めて合うところ結ぶにまかす知の泉」が、今日ここに、私たちの目の前にある、ということ全員で共有できる、そんな時間と空間を創り出しましょう。